



Title	感謝申し上げます
Author(s)	山森, 晶子
Citation	井戸武實の歩みと追悼集. 2025, p. 43
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/100739">https://hdl.handle.net/11094/100739</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 感謝申しあげます

山 森 晶 子

大阪市保健師

このたびは、父井戸武實追悼集の作成にあたり、編集委員会代表の高鳥毛先生をはじめ、取りまとめに奔走してくださった三浦先生、大阪大学学術情報庫 OUKA へ掲載をいただいた林田先生、お忙しい中、父との思い出を綴っていただいた皆様に心より感謝申しあげます。

父がこのような追悼集を作っていただいたことを知ったらとても驚き、感謝の気持ちで涙が止まらなくなるのではと想像します。不思議な感覚ですが、なんとか父に読んでもらう方法はないものかと考えてしまいます。それくらい父がいないことの実感がまだありません。

私が原稿を書かせていただくことをおこがましく感じ悩みましたが、感謝の気持ちをお伝えする術として書かせていただくことにいたしました。拙い文章をお許しください。

先日、2025 年 1 月 18 日ストップ結核パートナーシップ関西第 12 回ワークショップにおきましても、お世話になった先生方のご講演の中で、父との思い出や温かいお気持ちを聞かせていただきました。家族で参加させていただき、懐かしい写真やお話に胸がいっぱいになり、忘れられない 1 日となりました。

私自身、平成 28 年から 4 年間、西成区役所分館で下内先生をリーダーとした結核対策グループで勤務させていただき、その際はワークショップに参加させていただきました。直後のコロナ禍以降は、リモートで参加しておりました。嬉々として、ワークショップを楽しんでいた父の姿が忘れられません。

当事、父は、JICA 等あいりん地域の結核対策についての見学者の方を連れて、時々分館に現れ、下内先生のご講義の後、フィールドワークに出ていきました。

三浦先生が中心となり実施された「新あいりんシェルター居場所棟利用者を対象とした結核に関する聞き取り調査」では父と一緒に参加し、かけがえのない経験をさせていただきました。

胸部 X 線検診車の中で父と一緒にすることもあり、見学者の方に「実は私達親子なんですよ」とお伝えしても、なかなか信じてもらえず、笑ったこともありました。

私は精神保健福祉相談員として、サポーターハウスの健康相談にもお伺いしていましたが、父のことを知る方とお会いできたこともありました。

その数年前に、福祉職員向け研修会にゲスト参加するためにあいりん地域を訪れた際は、高齢者特別清掃事業事務所上のヘルスサポート大阪の事務所を尋ねました。偶然、元羽曳野病院にいらした亀田先生が来られていてお写真を撮っていただいたことも懐かしい思い出です。

「日本の結核の罹患率低下のためには、大阪府だけの対策ではなく、大阪市、西成区、あいりん地域の健康を守らないと」と父が話していたのを覚えています。ワークショップでの先生方のご講演を拝聴し、多くのお世話になった皆様と一緒に取り組ませていただいた歴史を改めて知ることができま

した。

父が大好きだったあいりん地域を私も大好きになりました。人情と人間臭さと哀愁と、誰をも受け入れる包摂の街に、父がなぜあんなに心惹かれていたのかを知ることができ、大阪市の保健師になれて良かったと思うことができました。

最後になりましたが、生前賜りましたご厚情に感謝いたしますとともに、皆様の一層のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

追伸：この追悼集の作成にあたり、三浦先生が何度もメールでやりとりをしてくださいました。やりとりの中で、その時々吐露した気持ちを聞いていただき、少しずつ心が回復していると感じました。ありがとうございました。